

5 ～ 6 月 どり ネギ の 簡 易 軟 白 栽 培 法

常 盤 秀 夫・石 井 睦 美・飯 塚 博 栄*

(福島県農業試験場いわき支場・*福島県伊達地域農業改良普及センター)

The Easy Method to Blanch a Welsh Onion to Harvest in June from May

Hideo TOKIWA, Mutsumi ISHII and Hakuei IIZUKA*

(Iwaki Branch, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station・
*Fukushima Prefectural Date Regional Agricultural Extension Service Center)

1 は じ め に

露地栽培のネギは冬の低温に遭遇した後、5～6月になると抽だいする。そのため、露地栽培ではこの時期から花茎の側芽が販売できる大きさに再び成長するまでの間は、ネギの出荷はできない。そこで5～6月にネギを出荷する方法の一つとして、低温に遭遇させないで生育させるハウス栽培に取り組んだ。ハウス栽培は土を使用しないで軟白する栽培方法である。また、通常の3倍程度の密植をする

ことにより、面積の有効利用が可能である。

ハウス栽培でのネギの軟白には、かつてはモミガラ等を使っていたが、その後、葉鞘部を条ごとにしゃ光フィルムではさむ方法(図3)が開発され、現在この方法が一般的となっている。ここでは、さらに簡易な新しい軟白方法を開発した。

2 試 験 方 法

(1) 試験1 簡易軟白方法と従来の方法の比較

フラワーネットとしゃ光フィルム(ホワイティシルバー、表面が白色で裏面が銀色のフィルム)を使った簡易軟白方法(図1～2)による区と、従来の条ごとにネギをしゃ光フィルムではさむ軟白方法(図3)による区の、収量・品質を比較した。栽植密度は両区とも4条植えとした。簡易軟白方法の手順は以下のとおりである。

- 1) フラワーネット(10cm角)に、ネギの通る切れ目を入れたしゃ光フィルムを張り付ける。
- 2) このネットを畦上面に設置し、切れ目からネギの苗を定植する。
- 3) ネギの生育に合わせて、ネットを上げていく。
- 4) ネギ葉鞘部の長さが十分確保できたら、畦ごと、ネットより下の側面をしゃ光フィルムで囲んで密閉する。

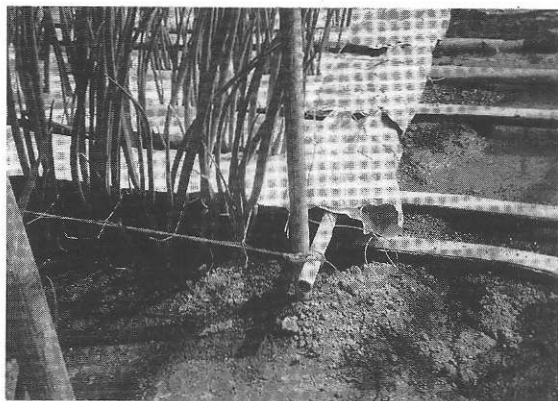


図1 簡易軟白方法(フラワーネットとしゃ光フィルム)

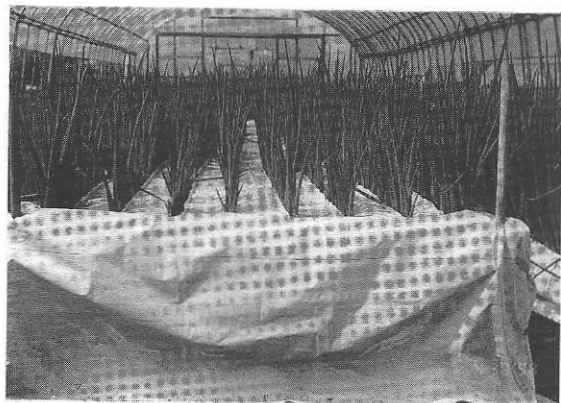


図2 簡易軟白方法(軟白状況)

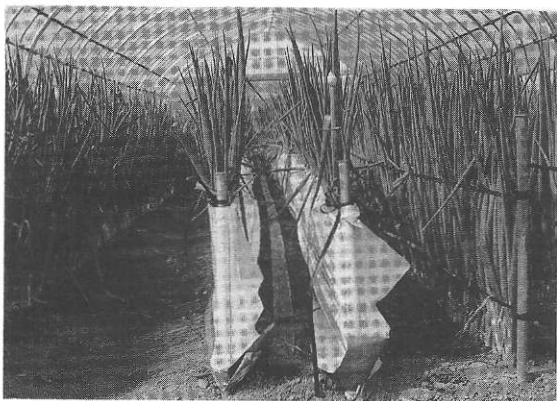


図3 従来の軟白方法

(2) 試験2 簡易軟白方法における栽植密度

簡易軟白方法では、作業上は条間を広くとる必要がなく、条間を狭くした密植栽培の可能性がある。そこで生産上適当な栽植密度を検討するため、120cm幅のベッドに、4条植え区(条間30cm)、6条植え区(条間20cm)、8条植え区(条間15cm)を設け、収量・品質を比較した。

(3) 試験3 簡易軟白方法における品種比較

ハウス栽培では露地と比べ低温遭遇量は少ない。しかし実際には品種により低温感応に差があるため抽だいの程度は異なる。そこで、晩抽性品種を含む以下5品種‘長悦’‘いさお’‘元蔵’‘長宝’‘雄山’を供試し、抽だいの程度と、収量を比較した。

(4) 栽培の概要

品 種: ‘長悦’。ただし、品種比較試験は、試験3のとおりである。

播 種 期: 1997年10月23日, 1998年10月8日

育苗方法: 200穴セルトレイに2粒播種し無加温ハウス内で育苗した。

表1 軟白方法と規格別収量(1997年)(単位: kg/a)

区	2L	L	M	S	小計	くず	抽だい	合計
簡易軟白法 4条植え	214	221	340	75	850	2	—	853
従来法 4条植え	16	238	348	121	723	13	9	745

品種: ‘長悦’

規格は福島県青果物標準出荷規格による

表2 栽植密度と規格別収量(1998年)

(単位: kg/a, %)

区	L	M	S	小計	くず	腐敗	抽だい	合計	LM規格割合	LM規格重量
8条植え(条間15cm)	25	339	298	663	26	8	302	999	55%	365
6条植え(条間20cm)	44	333	182	552	12	4	325	901	67%	377
4条植え(条間30cm)	116	221	74	412	13	3	265	692	82%	338

品種: ‘長悦’

規格は福島県青果物標準出荷規格による

表3 ネギ品種ごとの規格別収量(1998年)(単位: kg/a)

品種名	L	M	S	小計	くず	抽だい	合計
長 悦	185	298	49	532	15	312	859
い さ お	106	248	77	431	19	319	770
元 蔵	—	10	0	10	1	1215	1227
長 宝	—	17	3	20	10	629	660
雄 山	—	—	7	7	2	948	957

規格は福島県青果物標準出荷規格による

定 植 期: 1997年12月18日, 1998年11月20日

ベッド幅: 120cm

施 肥 量: 4条植 N-3.5, P₂O₅-4.2, K₂O-3.5 (kg/a)

6条植 N-5.3, P₂O₅-6.3, K₂O-5.3 (kg/a)

8条植 N-7.0, P₂O₅-8.4, K₂O-7.0 (kg/a)

定植株間: 2本立ちセル苗を6cm間隔に定植した。

収 穫 期: 1998年5月27日及び6月17日

1998年5月17日～18日

軟白開始時期: 収穫1か月前

保温方法: ハウス外張りのみ, 冬期間はほぼ密閉した。

3 試験結果及び考察

(1) 試験1 簡易軟白方法と従来の方法の比較

フラワーネットとしゃ光フィルムを使った方法は、従来の方法に比べて太い規格の割合が高く、生産性が向上した(表1)。また、倒伏や曲がりによるくずも少なかったことから、倒伏防止効果も高かった。

(2) 試験2 簡易軟白方法における栽植密度

植え付け条数が多いほど、規格内収量が多く、また、細い規格の割合が高かった。販売上有利なL, M規格の重量が最も多く収穫できたのは、6条植え区(条間20cm)であった(表2)。

(3) 試験3 簡易軟白方法における品種比較

当方法に適する品種は、抽だいが少なく、規格内収量が多い‘長悦’‘いさお’であった(表3)。

4 ま と め

ハウスネギは、フラワーネットとしゃ光フィルムを使った簡易な軟白方法を用いることにより、太い規格の割合が高くなり、生産性が向上する。その場合、栽植密度は条間20cmの6条植えとすることで販売上有利なM以上の規格のものが多く収穫できる。また、品種は抽だいの少ない‘長悦’‘いさお’を用いると良い。